

	1. 地域コーディネーターは、どのような人材が適任か	2. 地域コーディネーター（地域の人材）をどのように掘り起こしていくか
攝賀議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>統括コーディネーターの設置（社会教育課内）</li> <li>小学校は放課後子供教室事業やPTA、育成会関係の人材等</li> <li>中学校は学校支援活動（授業や部活動、学校行事補助）関係の人材等 ⇒子どもを育てる熱意のある人 地域に永年居住し、学校に助言等が出来、調整力を持ち合わせている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校から推薦</li> <li>市報等で公募</li> <li>プロポーザル方式 ⇒地域学校協働活動やコーディネーターについて主旨をよく理解して貰うことが重要（説明会の開催は検討要）</li> </ul>
長谷川副議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域をよく知り、学校関係者とも円滑にコミュニケーションがとれる人</li> <li>小学校では活動を通して学校と関わり合いのある組織（元PTA関係者、放課後子供教室、育成会等）の人材</li> <li>中学校では学校支援活動をしている組織団体（育成会、放課後カフェ、学習支援団体等）</li> </ul>	<p>【地域コーディネーター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校からの推薦 ⇒公募でもよいが、地域への理解、学校との信頼関係等、考慮する必要がある ⇒コーディネーター1名または2名、1名のところもサブの方が配置されているところが多かった（研修より） 2名配置し協力体制（役割分担など）を持ってできると良いと思う（持続性という面でも利点がある）</li> </ul> <p>【地域人材】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公募やアプリ等の人材情報等を活用</li> </ul>
岩崎委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファシリテーターとして機能できる資質や経験のある人（経験ある専門的人材）</li> <li>地域や学校内部の人と平等に連携・協働するためには外部の人（たとえば、NPOなどに委託）の方がうまくいく ⇒地域ボランティアではなく、職務として位置づけることが重要なようである。 学校事務の方が担う事例もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市報等で公募</li> </ul>
川原委員	<p>【2名配置可の場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企画力の優れたアイデアパーソン</li> <li>調整力の優れた地域、学校、行政と信頼関係を築ける方（現在のパイプの有無は問わない）</li> </ul> <p>【1名の場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調整力の優れた地域、学校、行政と信頼関係を築ける方（現在のパイプの有無は問わない）</li> </ul>	<p>【アイデアパーソン】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プロポーザル方式</li> </ul> <p>【調整力の優れた地域、学校、行政と信頼関係を築ける方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校もしくは地域の方の推薦</li> <li>人材情報提供事業のリストから探す</li> </ul>
木下委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の委員の意見と同様である</li> </ul>	
北村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>校長先生との信頼を築ける人</li> <li>地域や社会の動きを俯瞰して観ることができ、全体をまとめ、継続しながら仲間を増やしていくことができる人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校区の校長、副校長、PTAからの推薦 ⇒社会の動きが速いので、これからを担っていく人材も含め、幅広く候補を検討することが重要ではないか</li> </ul>
河野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校は放課後子供教室事業やPTA、育成会関係の人材</li> <li>中学校は学校支援活動（授業や部活動、学校行事補助）関係の人材等</li> <li>学校、保護者、地域と信頼関係がある方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校からの推薦 ⇒学校ともより良い関係が築いていくことができるとし、周囲の納得も得られるのではないか</li> </ul>
小松委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校との信頼関係が構築できている人</li> <li>子どもからも信頼されている、顔の見える人 ⇒大人の都合を優先しない</li> <li>できれば、30代～50歳くらい ⇒PCが使いこなせて、オンライン会議アプリzoom等、無理なく使いこなせるくらいの人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営連絡協議会等からの紹介</li> <li>一般財団法人東京学校支援機構（TEPRO）と連携し、人材について情報収集</li> <li>人材育成も重要ではないか コーディネーターは、オンライン会議アプリ（zoom）等が基本使える人が望ましい。 （使えない人の場合は研修を行い、使いこなせる人になってもらう）</li> </ul>
菅野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会の人材</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校長からの推薦</li> </ul>
高橋委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校と信頼関係が構築できている</li> <li>地域、保護者（PTA）からも信頼があり、地域情報（人材等）に精通している人材 ⇒元PTA会長等の役員、育成会会長、副会長等 主任児童委員、社会福祉協議会、放課後子供教室会長、見守りネット会長等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校長からの推薦</li> <li>育成会、PTAからの推薦</li> </ul>
星出委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの人権、子どもの権利について理解のある人材</li> <li>様々な問題に問題意識を持って携わることが出来る方（虐待や貧困等）</li> <li>多様な地域のありかた、考え方を柔軟に聴きとり、地域の声を反映するような人材</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>民生児童委員、人権委員、NGOの人材等</li> <li>異文化の課題にも精通しているような方</li> <li>いじめ等、多様な子どもたちのニーズ、困難や課題を熟知している方</li> </ul>
小林委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校と信頼関係が構築できている人材 ⇒学校運営連絡協議会のメンバー、副校長支援員、育成会関係、民生・児童委員等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校及び市教委からの推薦（1で回答した人材等から）</li> </ul>
矢野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の事情を理解している（関係構築ができてい）方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市報での公募</li> </ul>

	3. 学校側の理解をどのように得ていくか	4. 地域学校協働活動の推進に向けて、どのように学校、地域、行政で情報共有を行うか また、どのような段取りで推進（展開）していくか
攝賀議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>校長会にて地域学校協働活動の取組みを説明し、教職員の理解促進を図る（研修等も実施する）</li> <li>モデル校での状況を随時情報提供し、意識喚起を行う（ビジュアルでの提供）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポータルサイトを開設して事例や資料の共有を図る</li> <li>モデル校については、実施希望校を募る事が望ましいが、まずは実施校を選定して推進することにはどうか</li> </ul>
長谷川副議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>校長会や副校長会等で情報共有 ⇒地域学校協働活動に対する理解促進が重要ではないか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各校のホームページに地域学校協働活動のサイトを作成し、活動内容等の情報発信や共有できるようにする</li> <li>CSに地域コーディネーターが委員として参加することで、会議等による定期的な情報共有ができる</li> <li>モデル校での実施後、順次、教育委員会からコミュニティ・スクールの取組み校を指定し、推進していく</li> </ul> <p>【質問】 地域学校協働活動に関する予算的なものはどうなっていくのか</p>
岩崎委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデル校での実践を中心に、学校関係者に広げていく</li> <li>副校長と地域コーディネーターの合同研修会を実施</li> </ul>	<p>【段取り】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>モデル校の指定及び実施→実践事例の他校への普及</li> </ul> <p>【情報共有】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>モデル校内（副校長+地域コーディネーター→教職員）→その他の学校</li> </ul>
川原委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビデオの作成（モデル校で行っている事業や関係者へのインタビューを交える）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域学校協働活動のポータルサイトを作成 ⇒事例集や資料の共有をできるようにする</li> </ul>
木下委員		
北村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>校長会にて地域学校協働活動に関する説明や質疑応答を行う ⇒意識喚起や取組の重要性を理解してもらう</li> <li>年次の若い教職員の理解を得られるような取組 ⇒説明会等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>統括コーディネーターの配置（地域コーディネーターをとりまとめる人材）</li> <li>校長会議にてモデル校で地域学校協働活動に携わっている人材から取組む利点等について説明し、意識喚起する</li> </ul>
河野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>校長等学校関係者、学校運営連絡協議会のメンバー向けに研修を行う ⇒昨年杉並区の地域学校協働活動について研修会があった</li> <li>地域学校協働活動を推進している区部等の学校から異動してきた先生にお話しいただく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営連絡協議会を活用し、校長先生から、今後の取組みについて周知していただく ⇒協議会の委員についても地域学校協働活動の推進を見据えて検討する</li> </ul>
小松委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>上下関係なく情報共有を行う ⇒校長会での周知、職員会議での担当教職員からの報告</li> <li>他人事ではなく、自分自身が主体的に考えていこうとする機運を醸成する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポータルサイトを作成する ⇒HPやFB、twitterなどSNSを駆使し、情報発信を行う</li> <li>「新しい生活様式」等を踏まえた情報共有のあり方についても検討が必要 ⇒コーディネーターの事例報告や課題抽出も随時、オンライン（zoom）開催とする 現場で起きた課題などの事例を動画で記録し、オンライン（zoom）会議の際に、画面共有する コミュニティスクールの定例会（全大会議）をzoomで開催 ※提言にも「新しい生活様式」等に関する記載について検討した方がよいのではないか</li> </ul>
菅野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>校長会での説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学校運営協議会での情報交換</li> <li>地域SNSを活用</li> </ul>
高橋委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>校長会、副校長会、教務主任会、生活指導主任会等で「地域学校協働活動」の重要性を強調</li> <li>市立小中学校教職員対象の全体研修会で理解促進 ⇒西東京市の教育計画を踏まえて市教育委員会、市首長部局の基本的な考え方を学校に理解してもらう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CSの設置までは、「学校運営連絡協議会」が「地域学校協働活動の推進」に向けての情報共有の場とする</li> <li>学期ごとに市内全校のコーディネーターを集めて、事例報告や課題抽出 ⇒コーディネーターの時間が許せる範囲で実施</li> <li>モデル校（小・中1校ずつ）にて「地域学校協働活動」に取り組む ⇒各学校、地域の実情を尊重することが重要（無理のない範囲で随時展開）</li> <li>校務分掌に「地域学校協働活動」担当者を置く</li> </ul>
星出委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学校の実情に合ったものを校長と地域で作り上げていくプロセスを経る必要があるのではないか ⇒モデル校というお手本を掲げ、それに全校右にならえとするよりはよいと考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在ある学校運営連絡協議会や学校評価委員会等との協力関係を充実させてゆくのよいのではないか</li> <li>モデルなるものは特になくともよいのではないか ⇒協働活動の在り方は多様性を持つ方がよい</li> </ul>
小林委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校関係者（校長や副校長、教職員等）への啓発 ⇒研修会や説明会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後、西東京市において、「CS」や「地域学校協働活動」をどのように進めていくのかにもよるのではないか</li> </ul>
矢野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>段階を経て展開していく (小学校でモデル校実施⇒中学校でモデル校実施⇒小学校の多くへ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会の委員に関わっていただくのはよいと思う。 (構成員や位置づけについては検討が必要)</li> </ul>